

洪水浸水想定区域（想定最大規模）はどうやって決めたの？

こちらの面の洪水浸水想定区域^{※1}の範囲やその深さは、想定し得る最大規模の降雨（24時間で632ミリ）を前提として、川の水があふれた場合や堤防が壊れた場合をシミュレーションにより予測したものです。

【参考】横浜地方気象台では、平成26年10月5日に24時間で約307ミリの降雨を観測しています。^{※2}

なお、この洪水浸水想定区域は、前提となる降雨を超えるような大雨、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していません。したがって着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

※1 神奈川県ホームページ
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4i/cnt/f3747/p1039490.html>

※2 横浜地方気象台ホームページ
<https://www.jma-net.go.jp/yokohama/>

瀬谷区洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域(想定最大規模※)

境川水系河川：境川、和泉川、阿久和川、相沢川

この洪水ハザードマップは、境川水系等の河川の氾濫が予想される場合や実際に氾濫した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

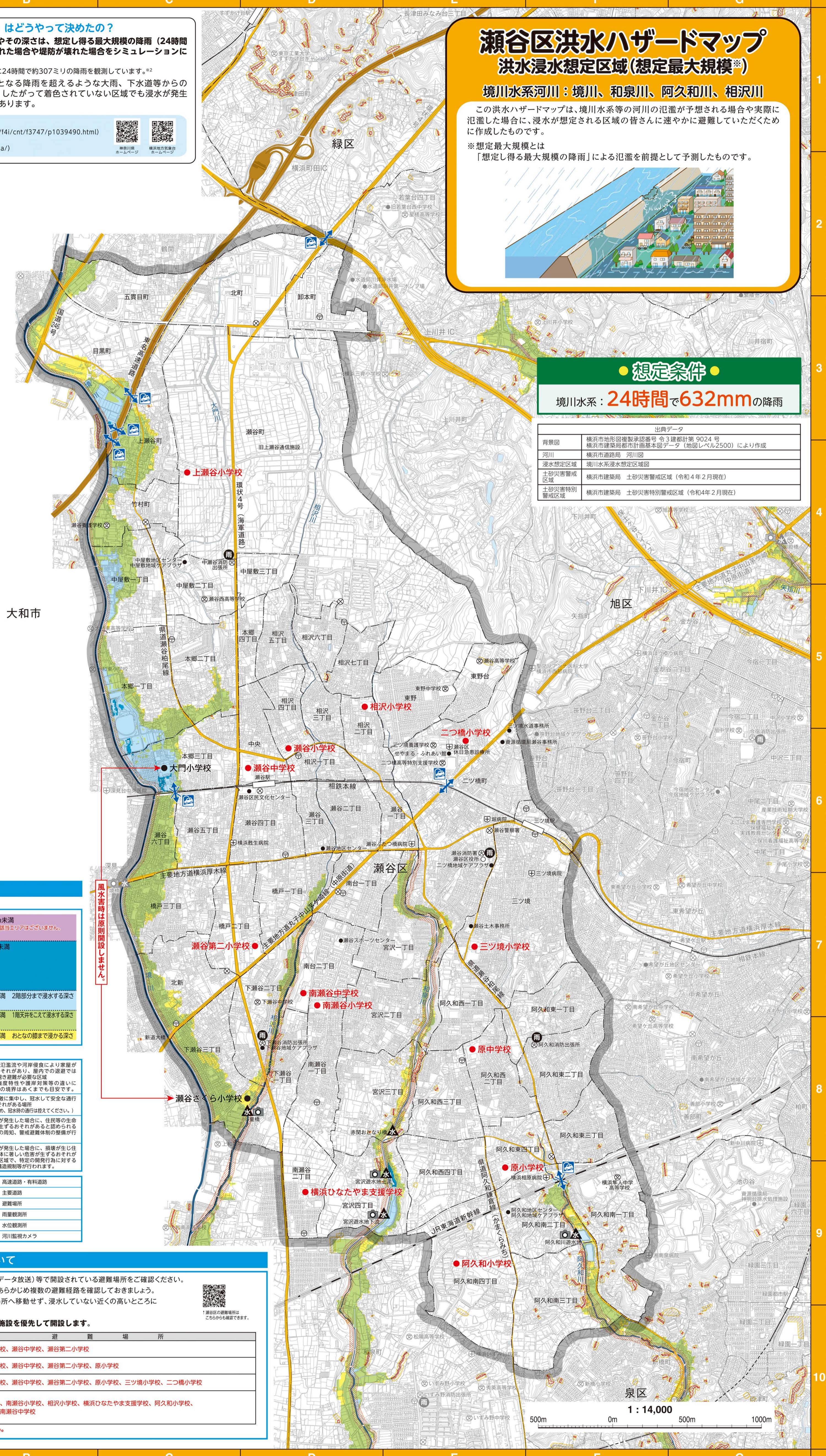
※想定最大規模とは
 「想定し得る最大規模の降雨」による氾濫を前提として予測したものです。



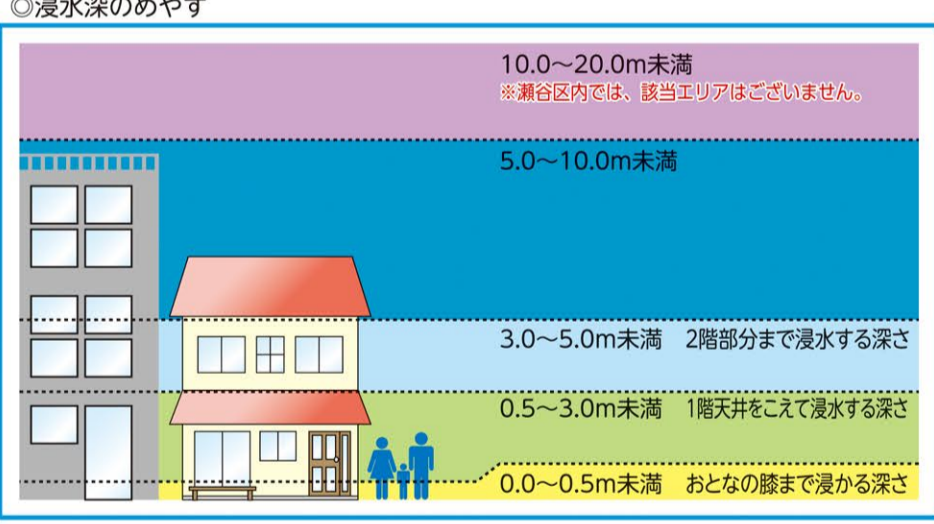
● 想定条件 ●

境川水系：24時間で632mmの降雨

出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9024 号 横浜市建築局都市計画基本図データ（地図レベル2500）により作成
河川	横浜市道路局 河川図
浸水想定区域	境川水系浸水想定区域図
土砂災害警戒区域	横浜市建築局 土砂災害警戒区域（令和4年2月現在）
土砂災害特別警戒区域	横浜市建築局 土砂災害特別警戒区域（令和4年2月現在）



凡例 (Explanatory Notes)



◎避難する際に注意する箇所

	家屋倒壊等氾濫想定区域	堤防決壊に伴う氾濫や河川侵食により家屋が倒壊・流出するおそれがあり、屋内での避難ではなく、早期の立ち退き避難が必要な区域 ※家屋の構造、強度特性や崖対策等の違いにより、この区域の境界はあくまでも目安です。
	アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所 (進入すると危険なため、緊急時の通行は控えてください。)
	土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあるおそれがある区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
	土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあるおそれがある区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
	郡界	高速道路・有料道路
	市区界	主要道路
	町丁目界	避難場所
	JR線・駅	雨量観測所
	私鉄線・駅	水位観測所
	市営地下鉄線・駅	河川監視カメラ

風水害時における避難場所について

◇避難の際は、必ず、市・区のホームページやテレビ（データ放送）等で開設されている避難場所をご確認ください。

◇2か所以上の避難場所へ避難できるように、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。

◇すでに浸水が始まっている場合には無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところへ避難してください。

なお、瀬谷区では避難場所として、下記に示した施設を優先して開設します。

条件等	避難場所
台風接近時やゲリラ豪雨により、境川に浸水被害が予想される場合	上瀬谷小学校、瀬谷中学校、瀬谷第二小学校
台風接近時やゲリラ豪雨により、区内河川に浸水被害が予想される場合	上瀬谷小学校、瀬谷中学校、瀬谷第二小学校、原小学校
大型台風接近時等、区内で浸水被害に加え、風による被害が予想される場合	上瀬谷小学校、瀬谷中学校、瀬谷第二小学校、原小学校、三ツ境小学校、二ツ橋小学校
上瀬谷小学校、瀬谷中学校、瀬谷第二小学校、原小学校、三ツ境小学校、二ツ橋小学校、二ツ橋小学校が、工事等により開設できない場合の代替として開設	瀬谷小学校、南瀬谷小学校、相沢小学校、横浜ひなたやま支援学校、阿久和小学校、原中学校、南瀬谷中学校

※瀬谷さくら小学校・大門小学校は、原則として開設しません。

